

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

## 日本の株式市場

### 市場の動向

日本の株式市場の代表的な指数である東証株価指数 (TOPIX) は、14日比で1.34%上昇しました。  
国内主力企業の2016年7-9月期決算発表を控え様子見ムードが強く、市場参加者が限られる中で大きく売り込む動きも見られず、日本株式市場は堅調な推移となりました。16年7-9月期の中国GDP(国内総生産)が前年同期比でほぼ市場予想通りの結果となり、中国経済の下振れ不安が薄れたことなども買い安心感につながりました。週末には前週末からの上昇を受けて利益確定売りの動きなどからやや下落しましたが、日本株式市場は16年5月末以来の水準を回復し、週間では上昇となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

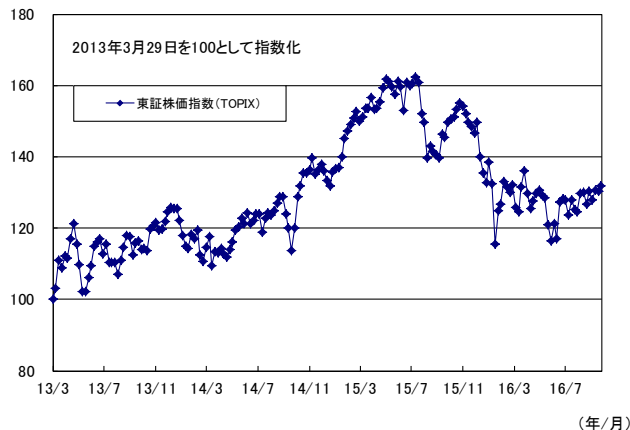
- 24日 貿易収支(9月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊  
騰落率がマイナスの場合: 😞  
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
1.34%	😊

<期間> 2013年3月29日～2016年10月21日



<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証株価指数 (TOPIX) の指数値及び TOPIX の商標は、株式会社東京証券取引所 (以下「東証」といいます。 ) の知的財産であり、株指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利及び TOPIX の商標に関するすべての権利は東証が有します。

## 世界の株式市場

### 市場の動向

世界の株式市場の代表的な指数であるMSCI-KOKUSAI 指数は、14日比円ベースで、0.16%下落しました。外国為替市場における円高進行が下落の主な要因となりました。  
米国株式市場 (現地通貨ベース) は、米大手企業の堅調な決算や合併買収 (M&A) の一部報道などから、上昇しました。  
欧州株式市場 (現地通貨ベース) は、原油価格の堅調な推移に加え、ECB (欧州中央銀行) のドラギ総裁が、ユーロ圏の基調的なインフレ見通しが不透明なことを背景に金融緩和策の継続を示唆したことなどをを受け、上昇しました。  
アジア (日本を除く) オセアニア株式市場 (現地通貨ベース) は、原油価格の上昇や、中国によるインフラ投資促進への期待などから上昇しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

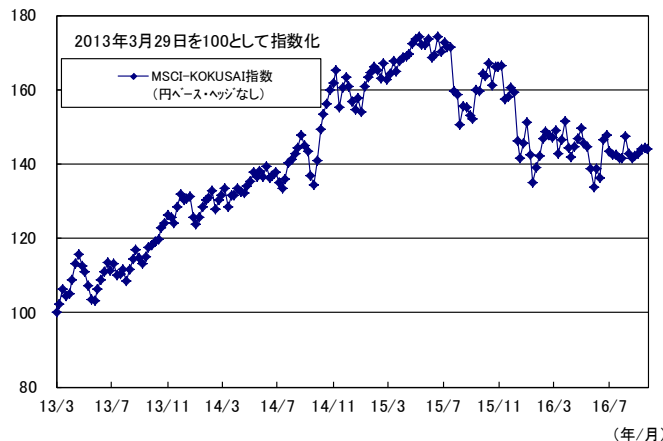
- 24日 ユーロ圏製造業・サービス業PMI (購買担当者景気指数、10月)
- 26日 米新築住宅販売件数(9月)
- 28日 米GDP (7-9月期、速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊  
騰落率がマイナスの場合: 😞  
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
-0.16%	😞

<期間> 2013年3月29日～2016年10月21日



<指数出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
<為替出所> 当該日ロンドン時間16時発表のWMMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

MSCI-KOKUSAI指数は、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

## 日本の債券市場

### 市場の動向

日本の債券市場の代表的な指数であるNOMURA-BPI総合は、14日比で0.04%上昇しました。

10年債利回りが日銀がターゲットとする0%をやや下回る水準で安定推移し、それに伴って日本債券市場全体は週を通じほぼ横ばいとなりました。また、ECB(欧州中央銀行)理事会において政策金利と資産買い入れ金額が据え置きとなったことで、緩和縮小懸念が払しょくされたことなどを背景に海外金利が安定推移したことも、日本債券市場を安定化させる要因となりました。

長期金利の指標となる10年国債利回りは、14日比で上昇(価格は下落)し、-0.052%となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 28日 全国CPI(消費者物価指数、9月)

など

	2016/10/14	2016/10/21	変化幅
日本10年国債利回り*	-0.054%	-0.052%	0.002%

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合: 😊

先週の騰落率

先週の相場動向

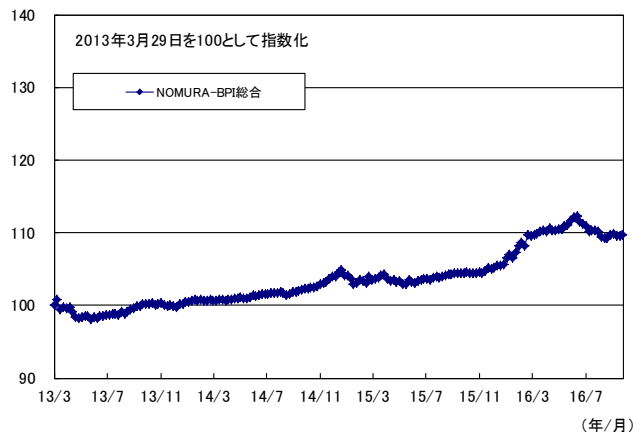
騰落率がマイナスの場合: 😞

0.04%



騰落率が横ばいの場合: 😐

<期間>2013年3月29日～2016年10月21日



NOMURA-BPI総合	2016/10/14	2016/10/21	騰落率
	384.43	384.58	0.04%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利は野村證券株式会社に帰属しております。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

## 世界の債券市場

### 市場の動向

世界の債券市場の代表的な指数であるシティ世界国債インデックスは、14日比円ベースで、0.69%下落しました。

米国債券市場(現地通貨ベース)は、9月の米国のコアCPIの伸び率が市場予想を下回ったことなどから、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。

欧州債券市場(現地通貨ベース)は、ECB理事会後の記者会見において、ドラギ総裁が資産買い入れ金額の減額を検討していないと発言したことなどから、ドイツ国債利回りは低下しました。

為替は、14日比で円/ドルレートは円高・ドル安、円/ユーロレートは円高・ユーロ安となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 24日 ユーロ圏製造業PMI(10月)
- 25-27日 米国債入札
- 25日 独Ifo景況感指数(10月)
- 27日 英GDP(7-9月期、速報値)
- 27日 米耐久財受注(9月)
- 28日 米GDP(7-9月期、速報値)

など

	2016/10/14	2016/10/21	変化幅
米国10年国債利回り*	1.798%	1.735%	-0.063%
ドイツ10年国債利回り*	0.058%	0.006%	-0.052%

騰落率がプラスの場合: 😊

先週の騰落率

先週の相場動向

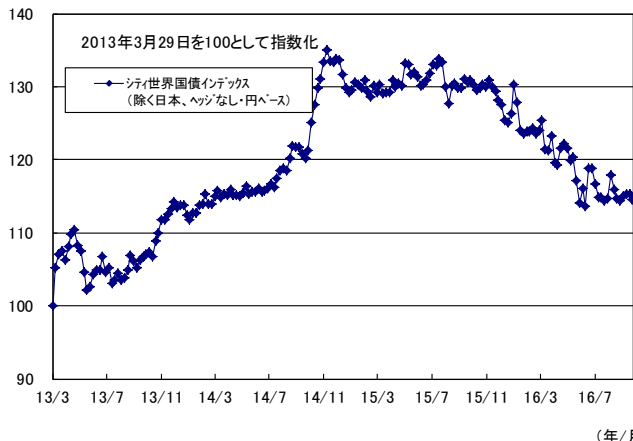
騰落率がマイナスの場合: 😞

-0.69%



騰落率が横ばいの場合: 😐

<期間>2013年3月29日～2016年10月21日



シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2016/10/14	2016/10/21	騰落率
	414.28	411.41	-0.69%
円/ドル	104.34円	103.83円	-0.49%
円/ユーロ	114.81円	112.87円	-1.69%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。 ・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

## 日本のREIT市場

### 市場の動向

日本のREIT市場(J-REIT市場)の代表的な指数である東証REIT指数は、14日比で0.19%下落しました。一部投資家から売りが出たことなどが背景にあります。

東京カンテイが発表した分譲マンション賃料月別推移によると、9月の首都圏・分譲マンション賃料は、前月比+0.1%の2,663円/㎡となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 28日 全国CPI(9月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

**-0.19%**

先週の相場動向



<期間>2013年3月29日～2016年10月21日



東証REIT指数(配当込み)	2016/10/14	2016/10/21	騰落率
	3,246.78	3,240.64	-0.19%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

## 世界のREIT市場

### 市場の動向

世界のREIT市場の代表的な指数であるS&P先進国REIT指数は、14日比円ベースで、0.33%下落しました。

米国REIT市場(現地通貨ベース)は、9月の米コアCPIの伸び率が市場予想を下回り、年内の米利上げ観測が後退したことなどから、上昇しました。

欧州REIT市場(現地通貨ベース)は、ECB総裁の発言などを背景に上昇した欧州株式市場に連れて、上昇しました。

豪州REIT市場(現地通貨ベース)は、豪株式市場の下落に連れて、下落しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 24日 ユーロ圏製造業PMI(10月)
- 25日 独Ifo景況感指数(10月)
- 27日 英GDP(7-9月期、速報値)
- 27日 米耐久財受注(9月)
- 28日 米GDP(7-9月期、速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

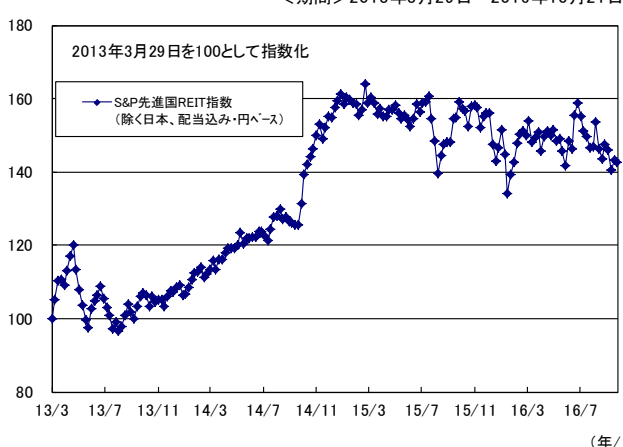
先週の騰落率

**-0.33%**

先週の相場動向



<期間>2013年3月29日～2016年10月21日



S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み・円ベース)	2016/10/14	2016/10/21	騰落率
	837.37	834.58	-0.33%
円/ドル	104.34円	103.83円	-0.49%
円/ユーロ	114.81円	112.87円	-1.69%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード&プアーズファイナンシャルサービシーズ エル エル シーの所有する登録商標です。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

## 新興国の株式市場

### 市場の動向

新興国の株式市場の代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、14日比円ベースで、1.09%上昇しました。

中国株式市場(現地通貨ベース)は、中国財政省が官民パートナーシップ(PPP)のプロジェクトリストを公表したことや原油高などを背景に、上昇しました。

ロシア株式市場(現地通貨ベース)は、シリア情勢を巡り欧米諸国がロシアに対し追加経済制裁を検討していることなどから、下落しました。

ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、大統領が16年10-12月期に景気回復が見られると予想したことや、中央銀行がおよそ4年ぶりとなる利下げを実施したことなどから、上昇しました。

南アフリカ株式市場(現地通貨ベース)は、金価格の上昇などを背景に上昇しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 26日 ブラジル融資残高(9月)
- 28日 ロシア金融政策

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

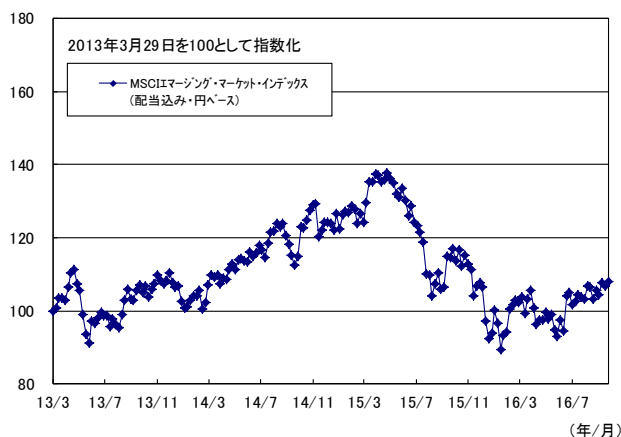
先週の騰落率

1.09%

先週の相場動向



<期間> 2013年3月29日～2016年10月21日



<出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

## 新興国の債券市場

### 市場の動向

新興国の債券市場の代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、14日比円ベースで、0.29%下落しました。

インドネシアでは、中央銀行が政策金利を引き下げました。一方、9月の輸出、輸入はともに市場予想を下回りました。このような環境下、同国の債券指数は下落しました。

ブラジルでは、中央銀行がおよそ4年ぶりとなる政策金利の引き下げを行ないました。このような環境下、同国の債券指数は上昇しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 24日 メキシコ失業率(9月)
- 25日 メキシコ小売売上高(8月)
- 27日 タイ輸出入(9月)
- 28日 ロシア金融政策

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

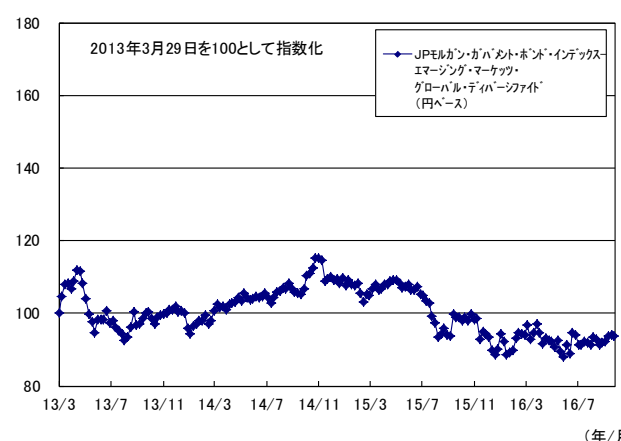
先週の騰落率

-0.29%

先週の相場動向



<期間> 2013年3月29日～2016年10月21日



<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (JP Morgan Government Bond Index - Emerging Markets Global Diversified) は、J.P. Morgan Securities LLCが公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

## 【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

### ■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

### ■投資信託に係る費用について

2016年10月現在

<p>ご購入時手数料 《上限4.32% (税込み)》</p>	<p>投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。</p>
<p>運用管理費用(信託報酬) 《上限2.1816% (税込み)》</p>	<p>投資家はその投資信託を保有する期間に応じたかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。</p>
<p>信託財産留保額 《上限0.5%》</p>	<p>投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。</p>
<p>その他の費用</p>	<p>上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会